

## IEA石油市場レポートの概要(2016年3月11日公表)

(代表部仮訳のため、正確には IEA のホームページを参照)

1. 原油価格は、供給の逼迫、生産調整に関する生産国間の対話の新提案、米ドル安によって、3月初めに過去三カ月で最も高い価格に上昇した。レポート策定時点で、ブレント価格は、39.80ドル/バレル、WTI 価格は 37.30ドル/バレル。
2. 特に米国と中国における需要の伸びの急激な減速により、世界の需要の伸びは1年で最も低い伸びに引き下げられ、2015年第4四半期に120万バレル/日となった。この伸びは、2015年第3四半期の過去5年で最も高い伸びに近づいた230万バレル/日から劇的に低い数字である。2016年においては、約120万バレル/日の伸びが見込まれる。
3. 世界の石油供給は、OPECと非OPEC生産ともに減少した結果、2月に18万バレル/日減少し、9650万バレル/日となった。生産は、1年前と比べて180万バレル/日上回っているが、これは非OPECの僅かな減少分を相殺する以上にOPECの増産が行われたことによる。非OPECの生産は、2016年に75万バレル/日減少し、5700万バレル/日となると見込まれる。この数字は、先月のレポートより10万バレル/日低い数字である。
4. OPECの原油生産量は、2月に9万バレル/日減少しながらも、引き続き堅調な3261万バレル/日となった。この減少は、イラク、ナイジェリア、UAEの減少が制裁解除後のイランの大幅な増加で部分的に相殺されたものである。OPECの最大生産国であるサウジアラビアの供給は安定的に保たれた。
5. OECD諸国の商業在庫は、1月に2020万バレル上昇し、引き続き32.7日分の将来需要をまかなうレベル。暫定的なデータによれば、2月に、浮遊式貯蔵にある原油は増加した一方、OECDの在庫は、ここ1年で初めて減少した。
6. 2016年第1四半期の世界の精製量は7910万バレル/日と見込まれるが、これはOECD諸国による精製量の減少と春のメンテナンス時期が第1四半期に移動したことを反映したもの。2015年第4四半期の伸びは、製品在庫の積み上がりと世界における需要の減少に沿った形で、100万バレル/日以下に減少した。